

ぼうさいきょういく じっさい  
**防災教育の実際**

学校だよりのNo28で紹介しましたが、11月30日(水)に3年生の防災学習(リアルHUG)、12月8日(木)に2年生の防災学習(AED救急救命講習)を行いました。

3年生のリアルHUGは生徒自身で計画し、運営者と避難者の役割演技を行いました。福岡県の日の里中学校からも先生が見に来られましたが、日の里中学校の防災教育にもぜひ取り入れたいと話されていました。



2年生のAED救急救命講習では阿蘇広域行政事務組合消防本部から5名来ていただき、第一体育館で2年1組が3時間目に、2年2組が4時間目に、実際に大人に行く講習会の時に使用されるAEDや人形を用いて行っていただきました。生徒の真剣さを褒めていただきました。



まいあさ まいひる せんきょううんどうがんば  
**毎朝、毎昼、…、選挙運動頑張っています。**

一階、生徒玄関  
二階、階段前の様子です。



じんけん さくぶん さくひん はっぴょう  
人権作文コンテスト作品発表

くまにち きじ けんたいかい  
12月1日(木)の熊日の記事に県大会の  
さいゆうしゅうしょうとう  
最優秀賞等の作品が紹介されていました。

本校でも夏休みを利用して生徒のみなさんが作文や標語を作り人権について考えました。本校生徒の作文は後日紹介します。今回は熊本日新聞社賞に選ばれた「似顔絵が教えてくれたこと」という中学3年生の作文(抜粋要約)を紹介します。

完璧な人なんてこの世には存在しない。欠点を互いに支え合い前に進んでいけるのだ。私が通っていた小学校には「特別支援学級」があった。国語や算数は別々の授業を受け、体育や給食だけ一緒に行く。低学年のときは支援学級の子たちが不思議だったが、ずっと同じ教室で生活したいと思っていた。しかし、高学年になるにつれ「私たちと支援学級の子たちは違う」と考えるようになった。



もちろん支援学級の子たちもできることを精一杯やっていた。ただ集団が苦手、会話をするのが苦手だった。今は当時の私の考えが差別的で支援学級の子たちを傷つけるものだったのかよくわかる。しかし当時は分からず、あるとき席替えで支援学級の子と隣の席になった。正直嫌だなどと思った。当時はとにかく支援学級の子たちを見下していたのだ。

ある日の図画工作で隣の人の似顔絵を描くことになった。私は昔から絵が苦手だった。案の定、全く似ていない似顔絵が出来上がった。いくら見下していたとはいえ、さすがに申し訳なく思い、自信なさげに下を向いて本人に絵を見せた。すると「すごくうれしい!ありがとうございます。」と笑顔で応えてくれたのだ。私は目を丸くした。お礼を言われるほど立派な作品ではない。でも今まで見下していた支援学級の子はずっとニコニコしながら私の作品を見てくれている。うれしかった。

そしてその子が描いてくれた私の絵を見たとき、私はさらに目がまん丸になった。ものすごく上手だったのだ。私がいまにも驚いていたからか、支援学級の先生がやってきた。先生の話ではその子はずっと絵を描いていて賞も取っている。それを知って絵を見ると、今まで見下していた自分がどれだけ小さい人間なのかやっと理解できた。理由もなく下に見ていたが、むしろ私が見下されてもおかしくない。やっと私は自分の考えが間違っていると気がついた。~~~~見下すのではなく、お互いの欠点を補い合える関係を築くことができれば誰も傷つかない。遅すぎではあるが私は気づくことができた。考えを改めることができた私には、やるべきことがあった。クラスに広がってしまっていた支援学級の子たちを見下し、差別してもよいような空気を変えることだ。~~~~その人自身が一番輝ける場所を選んだことを認め、うまく付き合っていきたいと全員が思える環境づくりに、私は力を尽くしたいと思う。みんなで支え合うことができ、みんなが輝ける。そんな世界を目指していきたい。

本校にも特別支援学級があり、あおば学級と呼んでいます。学校だよりのNo10では他校との交流会の様子を紹介しました。この作者が書いているように一緒に授業をする教科もあれば別々に授業をする教科もあります。その判断は南阿蘇村の教育支援委員会の中で出される関係機関や学校のデータをもとに決めています。大切なことはその子どもが将来の夢実現のための力を伸ばすためにはどちらの教室が良いのかで判断します。

当たり前の事ですが、どちらの教室にいる子どもも、一人ひとりを見ると出来る事もあれば、出来ない事もあります。しかし、作者が気づいたように、出来ない事で相手を下に見て安心したり、相手が出来る事を見てひがんだりする間違った考えを持たないようにしたいものです。